

アレルギー検査を 受けられた方へ

アレルギーとは

特定の物質に対して免疫の仕組みが反応して、体に不利益な症状が引き起こされることを指します。通常は体に害のない食べ物や花粉などを異物とみなして反応してしまいます。ここで異物とみなされアレルギー反応を引き起こすものを「アレルゲン」と呼びます。アレルギー体質の体内ではアレルゲンごとに「IgE 抗体」が産生され、体内に IgE 抗体がある状態で再度アレルゲンが体内に入ってきた際に免疫反応が起こり、症状が引き起こされることがあります。IgE 抗体があっても必ずしも発症しないケースもありますので、アレルギーかどうかは IgE 抗体の存在だけではなく、医師のもと総合的に判断します。

アレルゲン暴露による症状



目のかゆみ
異物感
目やに



くしゃみ
鼻水
鼻づまり



喉のかゆみ
口唇の腫れ



ゼーゼー
ヒューヒュー
咳が長引く
呼吸困難



皮膚のかゆみ
じんましん
湿疹



腹痛
嘔吐
下痢
便秘



免疫反応の
確認



血液検査(特異的 IgE 抗体検査)、
皮膚プリックテストなどで免疫反応
の関与を確認¹⁾

アレルギー

このような症状があっても「アレルギー」と呼ばないことがあります²⁾

特定の食物を食べて症状が出て、免疫反応が確認できないケースも多くあります。

食中毒	フグやキノコに含まれる毒を誤って食べてしまうと症状が起きてしまいます。
乳糖不耐症	牛乳中に含まれる乳糖が十分消化できず下痢などの症状が出てしまう人がいます。
ヒスタミン中毒	鮮度の落ちた魚(サバなど)ではヒスタミンという物質がつくられてしまい、アレルギーと同じような症状が引き起こされることがあります。
食品中にふくまれる アセチルコリンによる症状	ナガイモを食べると口の周りが赤くなったりかゆくなったりすることがあります。

免疫反応が
関与しない

アレルギー検査からわかること

今回あなたが受けたアレルギー検査では、**血液中の「IgE 抗体」がどれくらい存在するか**を確認しています。抗体が多いものほど、**アレルギー症状の原因となっている可能性が高いもの**となります^{1,3)}。



(イメージ) IgE 抗体

検査結果の詳しい見方は裏面にて紹介しています

アレルギー検査 検査結果の見方

今回あなたが受けたアレルギー検査では、IgE 抗体の量を index 値として表しています。

Index 値に応じて 0-6 の 7 段階のクラスに分類します。クラス 0 を陰性、クラス 2 以上を陽性と判定します。クラス 1 は疑陽性で陽性とは判定されない程度の IgE 抗体が存在しています。クラスが高い方が IgE 抗体の量が多いことを示しています。

アレルギー検査結果報告書(例)

今回検査した
アレルゲン名

アレルゲンに対する IgE 抗体量
Index 値/クラス

アレルゲン名	Index 値	クラス	クラス(判定域)						
			0	1	2	3	4	5	6
ハウスダスト1	0.27 未満	0	★						
ヤケヒョウヒダニ	0.27 未満	0	★						
スギ	0.27	1	★	★					
ヒノキ	0.49	1	★	★★★★★					
ハンノキ(属)	0.50	2	★	★★★★★	★				
シラカンバ(属)	1.79	2	★	★★★★★	★★★★★				
カモガヤ	1.80	3	★	★★★★★	★★★★★	★			
オオアワガエリ	17.35	5	★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★★★★★	★	★

クラス2以上が陽性

Index 値をもとにクラスへ分類

Index値	クラス	判定
0.27 未満	0	陰性
0.27 以上 — 0.50 未満	1	疑陽性
0.50 以上 — 1.80 未満	2	陽性
1.80 以上 — 7.05 未満	3	
7.05 以上 — 17.35 未満	4	
17.35 以上 — 29.31 未満	5	
29.31 以上	6	

症状を引き起こす可能性
低い → 高い

注意 IgE 抗体は必ずしも症状の有無や強さを示すものではありません。

陰性と判定された項目について

➡ 陰性と判定されても、気になる症状がある場合には、医師へご相談ください。 IgE 抗体の量が微量でも症状が引き起こされることもあります。

陽性と判定された項目について

➡ 症状の原因となる可能性がある項目です。自己判断せず、一度、医師へご相談ください。

今回測定していないものがアレルギーの原因となっているケースもあります

アニサキス

魚介類に寄生する寄生虫。アニサキスが寄生している魚介類を食べた際にアレルギー症状が引き起こされることがあります。



アレルギーの専門医療機関はこちら

日本アレルギー学会 アレルギーポータル
<https://allergyportal.jp/facility/>



もっとアレルギーについて詳しく知りたい方は

みんなのアレルギー情報室

検索



参考資料 1) アレルギー総合ガイドライン 2022
2) アレルギーポータル (<https://allergyportal.jp/>)
3) Ann Allergy Asthma Immunol. 2008; 101: 580-592.

Learn more at thermofisher.com/hcp-jp

thermo scientific

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社